

編輯室の内外

不順な氣候の爲め日毎に服装を更めなければならなかつたのは入梅前からの事であつたが愈本格的に暑氣が加はつた爲め俄かに苦しみを覺えた、編輯室は窓外から裏ひ來る道場のかまびすしき叫び聲に耳を聳せられたながら豫定日に八月號を刊行することを得た、これも投稿諸彦の多大な高價の賜である、編輯子は謹んで感謝をさし、この次第である、然し夫れから夫れへと續々貴重なる玉稿に接するので乍遺憾後着のものは次號に割愛せざるを得ないのである、ひとへに投稿諸彦の御宥恕を希ふものである。現役軍人が徒黨を組んで叛亂を起し帝都を一時混亂の渦中に陥らしめた國辱事件も日を経るに従ひ市民をして興奮から平靜へ赴かしめた、だが七月七日の拂曉に陸軍省公表に係る軍法會議の判決はまた新たな衝動を感ぜしめられた、其の行爲たるや聖諭に悖り、理非順逆の道を誤り、國憲國法を無視し而かも建軍の本義を紊り、苟も大命なくして斷して動すべからざる皇軍を僭用し、下士官兵を卒んで叛亂行爲に出でたるか如きは其の罪寃に重且大なりと謂ふべし」と斷した判決の罪狀を一讀し其の公正嚴肅なる判斷に思はず暗涙を催うしたのである、斯るが故に肅軍の實現化上畫龍點晴の感あらしめたのである。處刑されたる者

に怨恨の存する筋なく國民をして皇軍の前に襟を正さしむるに外ならない。

地方長官會議に次いで總務部長會議、經濟部長會議、學務部長會議、總務部長會議が開催されて地方廳の首腦職員は各本省から直接に指導を與へられた、會て地方長官たりし某老翁が、夫れでは長官の威信が減じ下廻上の奇現象を生ずることを保し難いのであると言はれたが之れは一の杞憂に過ぎないであらう、今や時局は統制と肅秩とを要求されて居るが故に地方廳の首腦職員は克く本省の指導精神に直觸して居らねば或は認識不足を觀ることがないとは限られない、要は長官の智力と人格とが能く部下を統督し行くことである、長官の工夫と苦勞とは茲に存する、あながち形を以て眞を喪ふなきを祈る。

本誌上で屢々其名をたゝゑられた鐵道省の自動車課長菅氏が今同の異動で監察官に榮轉せられたと傳へらるゝ、菅氏としては折角骨を折つて育てた省營バスに對し心残りがあるであらうが官吏の轉任は官界の常事であつて民界と事情を異にするは此點である、本人の努力と忠誠は一事でなく普遍的でなければならぬのが官界の法則とも見らるゝ。なすまじきは官仕へとこぼしなごらも矢張榮進を望むが官人の特質である乞ふ自愛して更らに雲を得て飛躍を重ねられんことを。

三伏の暑日々加はり來つて筆を執るものうき思ひがする、土木事業にたづさわ現場に従事する諸氏の苦熱を思へば室内の暑さ何かあらんかと覺悟するのである、土木現場者は自愛して報國の誠を竭されんとを、之れ直接國防に當らざるも國運伸展の上に大なる力と爲るの仕事である。

鋼橋の工作はデューコール鋼を用ひニツケルを使ひ無鈍にして全部銻接に因るなど交通機關の發達に伴ひ日進月歩の勢で改良され合理されて行くのは技術界に於て喜ぶべく祝すべき現象であるが更らに進んで大砲の俾力や空中投下の爆彈力に想到するときに鋼橋の脆さを憂へざるを得ない之れ獨り大串教授の憂のみならんやである。(洩)

定價一部 五十錢
一ヶ年分 金六圓

發行所 東京市麹町區外櫻田町一番地内務省内
社 團 道 路 改 良 會
電話銀座(57)四二七

發行所 東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二
編 輯 者 小 島 效

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
常 馨 印 刷 所
印刷者 奈 良 直 一